

2006年3月期
年度決算説明会

全日本空輸株式会社

2006年4月28日



**. 2005年度 決算概要** ----- P. 1 - 12

- (1) 決算概況
- (2) セグメント別実績
- (3) 航空運送事業利益
- (4) 旅客事業
- (5) 貨物事業

. 2006年度 通期業績予想 ----- P. 13 - 17

- (1) 業績予想
- (2) 利益計画
- (3) 業績予想の前提値

. 資料編 ----- P. 18 - 19

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、燃料費等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。



(1) 決算概況 経営成績

単位: 億円 (¥100 Million)

	2004年度 FY2004	2005年度 FY2005	差異 chg.
営業収入 Operating Revenues	12,928	13,687	+759
営業費用 Operating Expenses	12,150	12,799	+649
営業利益 Operating Income	777	888	+110
営業利益率(%) Operating Income Margin	6.0	6.5	+0.5
経常利益 Recurring Income	652	667	+15
当期純利益 Net Income	269	267	-2

©ANA 2006

3

2006年3月期の連結経営成績は、売上高は前年同期比5.9%増の1兆3,687億円、営業利益は888億円となり、全ての事業セグメントで黒字を計上しました。

経常利益は667億円となり、営業利益と共に過去最高を更新しました。

一方で、減損処理に伴う特別損失を204億円計上したことなどにより、当期純利益は前年同期比で2億円減益の267億円にとどまりました。



財政状態

単位: 億円(¥100Million)

	2005年3月末 As of Mar.31.2005	2006年3月末 As of Mar.31.2006	増減chg.
総資産 Assets	16,066	16,668	+602
株主資本 Shareholders' Equity	2,142	3,463	+1,320
株主資本比率(%) Ratio of Shareholders' Equity	13.3	20.8	+7.5
有利子負債残高 Interest Bearing Debts	9,422	8,463	-959
オフバランスリース債務含 include off balanced transaction	12,276	11,690	-586
D/Eレシオ(倍) Debt/Equity Ratio(times)	4.4	2.4	-2.0
オフバランスリース債務含 include off balanced transaction	5.7	3.4	-2.3
ROA(%) 総資本事業利益率 Return on Assets	5.2	5.7	+0.5
ROE(%) Return on Equity	12.6	7.7	-4.9

©ANA 2006

4

株主資本については、転換社債の株式転換、新株式の発行(増資)及び当期純利益の計上などにより、前年度末に比べて1,320億円と大幅に増加し、3,463億円となりました。

株主資本比率は、前年度末に比べて7.5%改善し、20.8%と良化しています。

また、経営指標であるD/EレシオやROAも確実に改善しています。

連結キャッシュフローの概要 Consolidated Summary of Cash Flow

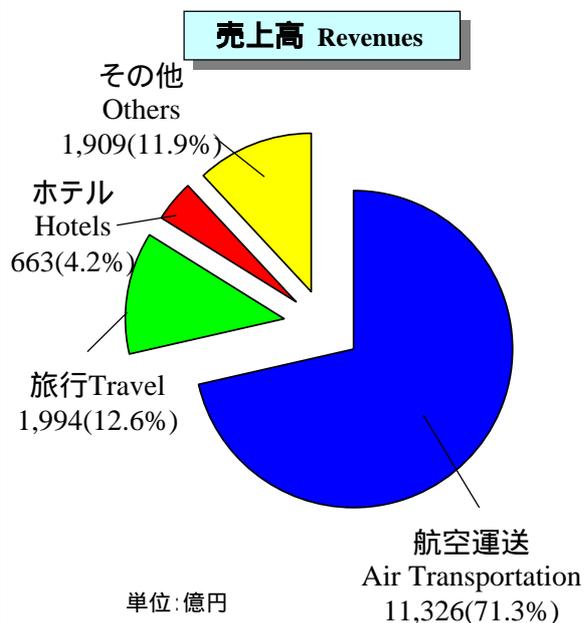
単位: 億円(¥100 Million)

	2004年度 Results of FY2004	2005年度 Results of FY2005	
			増減chg.
営業キャッシュフロー Cash Flow from Operating Activities	1,490	1,285	-205
投資キャッシュフロー Cash Flow from Investing Activities	-1,692	-464	+1,228
財務キャッシュフロー Cash Flow from Financing Activities	-516	-31	+484
現金及び現金同等物の 増減額 Net Increase or decrease	-713	794	+1,507
現金及び現金同等物の 期末残高 at the end of March	1,631	2,427	+796
減価償却費 Depreciation & Amortization	704	762	+57
設備投資額 Capital Expenditures	2,101	2,355	+254

フリーキャッシュ・フローは820億円となりました。

現金及び現金同等物は796億円増加し、期末残高は2,427億円となりました。

(2) セグメント別実績



2005年度 単位: 億円

	航空	旅行	ホテル	その他	計
売上高	11,326	1,994	663	1,909	15,894
前年差	+657	+91	-31	+75	+793
営業利益	741	32	46	67	887
前年差	+60	+0	+51	-1	+110

2004年度 単位: 億円

	航空	旅行	ホテル	その他	計
売上高	10,669	1,902	694	1,833	15,100
営業利益	680	31	-4	69	776

注) 売上高 : セグメント間内部売上高含



(3) 航空運送事業利益

単位: 億円 (¥100 Million)

		2004年度	2005年度	増減 Chg.
		FY2004	FY2005	
営業収入	国内線旅客 Domestic Passengers	6,587	6,850	+263
	国際線旅客 International Passengers	2,107	2,292	+184
	貨物郵便 Cargo & Mail	909	967	+57
	その他 Others	1,064	1,216	+151
	合計 Operating Revenues	10,669	11,326	+657
営業費用	燃油費及び燃料税 Fuel & Fuel tax	1,485	1,798	+312
	空港使用料 Landing & Navigation Fee	977	1,004	+27
	航空機材賃借費 Aircraft Leasing Fee	942	867	-75
	減価償却費 Depreciation & Amortization	617	679	+62
	整備部品・外注費 Aircraft Maintenance	530	614	+83
	人件費 Personal Expenses	2,203	2,301	+97
	その他 Others	3,231	3,319	+88
	合計 Operating Expenses	9,989	10,585	+596
営業利益 Operating Income	680	741	+60	

©ANA 2006 注) 収入: セグメント間の売上高を含む

7

航空運送事業について説明します。

営業収入は、国内線、国際線ともに堅調に推移し、前年差 657億円となりました。

一方、営業費用は前年差 596億円の増加にとどめました。

営業利益は原油価格が高騰したにもかかわらず 前年差 60億円の増益となり、これまでの当社戦略が功を奏したと考えます。



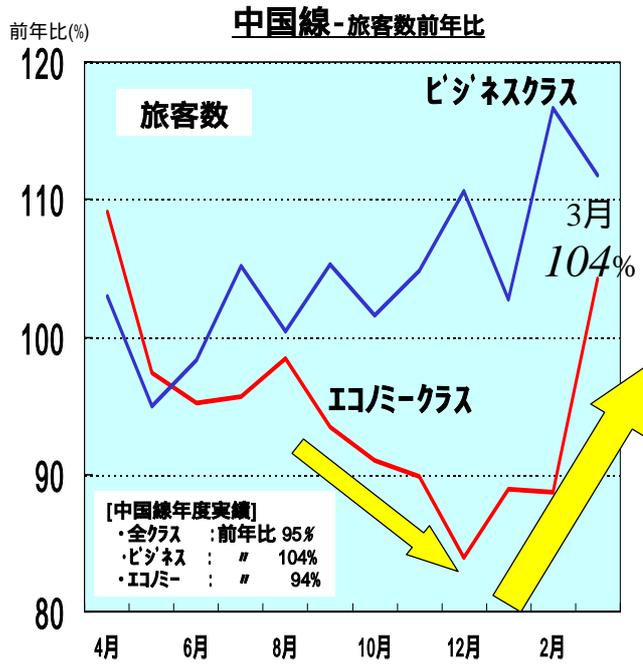
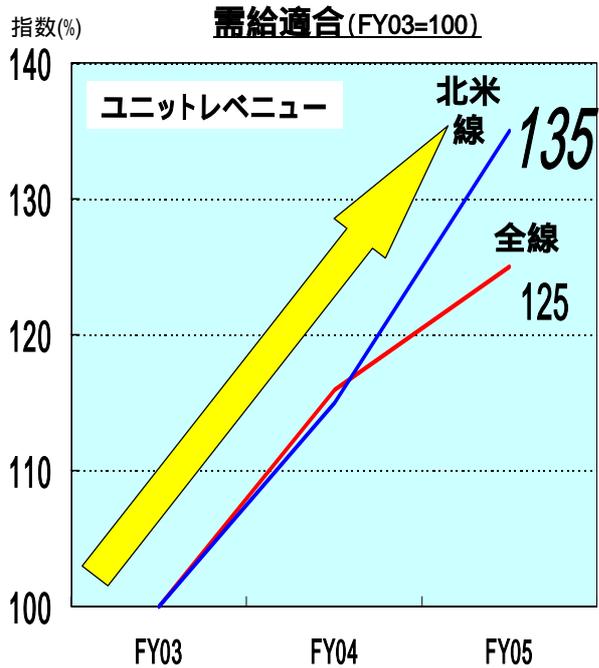
(4) 旅客事業

〔国際旅客〕

	2004年度		2005年度	
	FY2004	前年比増減 Chg.	FY2005	前年比増減 Chg.
旅客数(千人) Passengers(thousands)	4,116	124.7%	4,134	100.4%
座席キロ(百万) Available Seat Km(millions)	25,190	102.3%	25,338	100.6%
旅客キロ(百万) Revenues Passenger Km(millions)	19,191	113.2%	18,769	97.8%
座席利用率(%) Load Factor(%)	76.2	+7.4	74.1	-2.1
旅客収入(億円) Passenger Revenues(100millions)	2,107	119.1%	2,292	108.8%
ユニットレベニュー(円) ¥/ASK	8.4	116.4%	9.0	108.1%
イールド(円) ¥/RPK	11.0	105.2%	12.2	111.2%
単価(円) Unit price	51,198	95.5%	55,443	108.3%

©ANA 2006 注) 収入: セグメント間の売上高を含む

国際線動向



©ANA 2006

B777化による需給適合を進めた結果、北米線はその効果が顕著に現れました。

中国線のビジネスクラスは既にゴールデンウィーク後に、その需要は回復し、また回復が遅れていたエコノミークラスも本年3月には前年を越える状況まで改善しています。

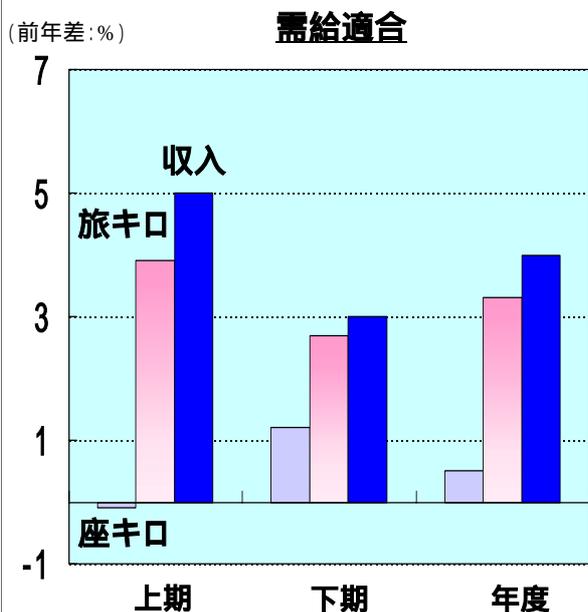


〔国内旅客〕

	2004年度		2005年度	
	FY2004	前年比,増減 Chg.	FY2005	前年比,増減 Chg.
旅客数(千人) Passengers(thousands)	44,486	99.3%	45,474	102.2%
座席キロ(百万) Available Seat Km(millions)	60,649	96.0%	60,973	100.5%
旅客キロ(百万) Revenues Passenger Km(millions)	38,454	99.0%	39,712	103.3%
座席利用率(%) Load Factor(%)	63.4	+1.9	65.1	+1.7
旅客収入(億円) Passenger Revenues(100millions)	6,587	102.2%	6,850	104.0%
ユニットレベニュー(円) ¥/ASK	10.9	106.4%	11.2	103.4%
イールド(円) ¥/RPK	17.1	103.2%	17.3	100.7%
単価(円) Unit price	14,808	102.8%	15,065	101.7%

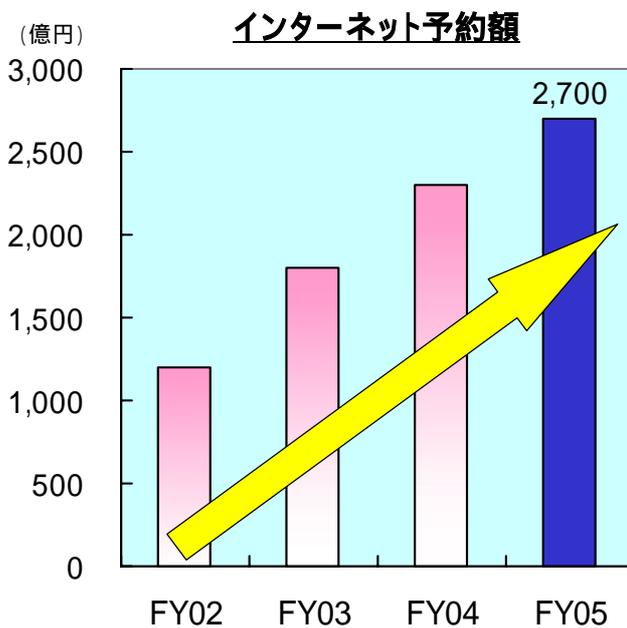
©ANA 2006 注)収入:セグメント間の売上高を含む

国内線動向



注)実績:05年度 全線

©ANA 2006



11

安定収益の確保に向け、需給適合とイールドマネジメントを強化すると同時に競争優位を実現させました。

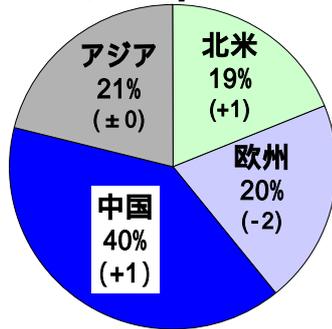
インターネット予約は、2002年の本格運用以来、毎年平均 30%のペースで拡大しています。

(5) 貨物事業

		2004年度		2005年度	
		FY2004	前年比増減 Chg.	FY2005	前年比増減 Chg.
国内	輸送重量(トン) Cargo ton(tons)	422,397	101.9%	440,750	104.3%
	貨物収入(億円) Cargo Revenues(100millions)	295	110.7%	296	100.5%
国際	輸送重量(トン) Cargo ton(tons)	234,417	106.3%	248,735	106.1%
	貨物収入(億円) Cargo Revenues(100millions)	500	115.9%	553	110.6%

注) 収入: セグメント間の売上高を含む

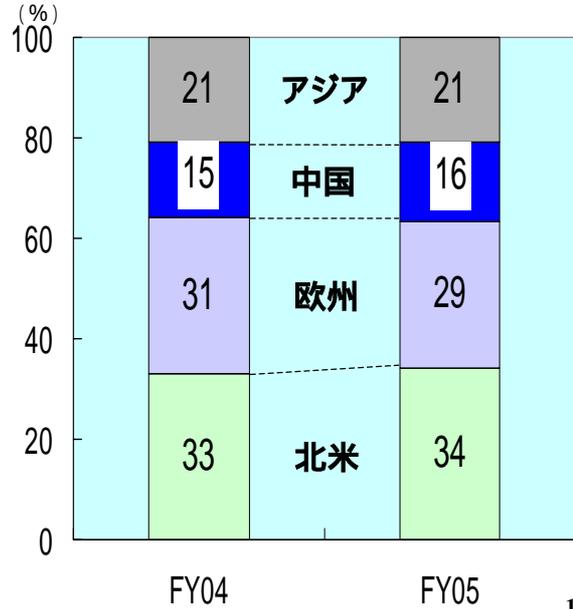
[方面別収入構成比]



©ANA 2006

注) 括弧: 前年差

[有償トンキロ構成比]



国内は、羽田-佐賀線を2月23日から従来の旅客機材 2便/日から貨物専用機による1便/日の運航へ変更しました。

一方、国際は貨物専用機 3機体制となり、中国、アジアへの投入により輸送量は堅調に推移しました。



(1)業績予想

単位: 億円 (¥100 Million)

	2005年度 FY2005	2006年度 FY2006
営業収入 Operating Revenues	13,687	14,200 (+513)
営業費用 Operating Expenses	12,799	13,440 (+641)
営業利益 Operating Income	888	760 (-128)
営業利益率(%) Operating Income Margin	6.5	5.4 (-1.1)
経常利益 Recurring Income	667	475 (-192)
当期純利益 Net Income	267	270 (+ 3)

©ANA 2006注)括弧内は前期との増減 change from previous year

13

連結売上高は、1兆4,200億円、前年度比103.7%で510億円程度の増収を見込みます。

営業利益は、760億円です。

経常利益は475億円を見込んでいます。

2007年3月期の最終利益は、270億円を予定しています。



セグメント別

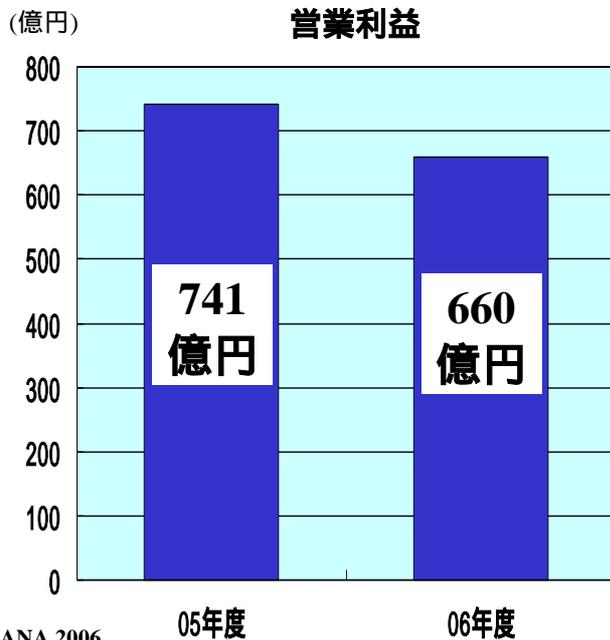
単位: 億円 (¥100 Million)

	FY2005		FY2006	
	売上高 Revenues	営業利益 Operating Income	売上高 Revenues	営業利益 Operating Income
航空 Air Transportation	11,326	741	11,886	660
旅行 Travel	1,994	32	2,068	25
ホテル Hotel	663	46	678	40
その他 Others	1,909	67	1,840	35
消去 Eliminations	-2,206	-	-2,272	-
計 Total	13,687	888	14,200	760



(2) 利益計画

航空運送事業



対05年度 (前年差)

[収入]	
・旅客	+約275億円
・貨物郵便	+約175億円
・その他	+約110億円
計	+約560億円
[費用]	
・燃油関連	+約450億円
・貨客連動	+約70億円
・その他	+約120億円
計	+約640億円

©ANA 2006

15

航空運送事業について説明します。

収入面では

・国内、国際線の運賃値上げやサーチャージ
を中心に05年度比 約560億円の増収を計画します。

一方、費用面では

・燃油関連、貨客連動費用などが増加するため
640億円の増加となり、

その結果、営業利益は 660億円となります。

(3)業績予想の前提値

単位:前年比、%chg

	項目 Items	上期 1st H	下期 2nd H	年度 TTL
国内旅客 Domestic Passengers	座キロ ASK	99.8	101.2	100.5
	旅キロ RPK	97.2	98.3	97.7
	旅客数 Passengers	97.5	98.5	98.0
	利用率 L/F(%)	63.9	62.7	63.3
	UR (Rev./ASK)	101.2	101.3	101.2
	旅客イールド'(Rev./RPK)	104.0	104.2	104.1
	単価 Unit Price	103.7	104.0	103.8
国際旅客 International Passengers	座キロ ASK	101.3	108.2	104.8
	旅キロ RPK	98.3	101.9	100.1
	旅客数 Passengers	100.8	103.4	102.1
	利用率 L/F(%)	71.3	70.3	70.8
	UR (Rev./ASK)	105.8	98.3	101.9
	旅客イールド'(Rev./RPK)	109.1	104.4	106.7
	単価 Unit Price	106.4	102.8	104.5
フレーター Freighter	供給 ATK	298.4	274.9	283.8
	重量 tons	334.7	244.1	278.1

注1)旅客イールド:旅客収入÷旅キロ

2)UR:ユニットレベニュー(旅客収入÷座キロ)

為替レート Exchange Rate	1USD	JPY 115
ドバイ原油 Crude Oil	BBL	USD 55
SIN製品 Kerosene	BBL	USD 74

©ANA 2006

16

国内旅客は、

- ・収益性指標であるユニットレベニューは約 1% 改善します。

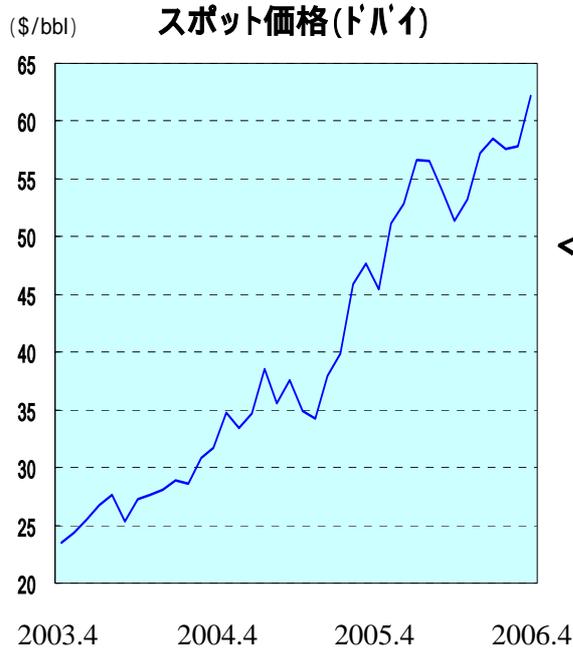
国際旅客は、

- ・ユニットレベニューは約 2% 改善します。

フレーターは、

- ・日本郵政公社との合併会社であるANA & JP エクスプレスによる運航がはじまり、生産規模が拡大します。

燃料／為替ヘッジ



< 燃油に関する単価ヘッジ >

- ・方針: 年間消費量の100%
- ・方法: 対象年度の3年前から四半期毎に消費量の約8%ずつをヘッジ。

	FY2006	FY2007
ヘッジ率	75%	30%

< 燃油に関する為替ヘッジ >

- ・方針: 年間ドル支払額の80%(但し、FY06: 100%ヘッジ)
- ・方法: 対象年度の5年前から開始。
ドル総支払額の10%ずつを毎年ヘッジし、残り分を最終年度に実施。

	FY2006	FY2007
ヘッジ率	75%	30%

原油／為替変動による影響(ヘッジしない場合)

経常損益ベース

(1)原油価格 1ドルの変動: 23億円 / 年

(2)為替 1円の変動 : 12億円 / 年



設備投資額・減価償却費

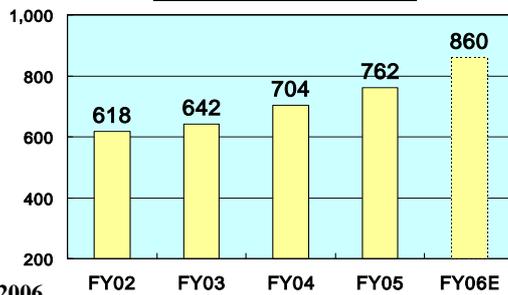
設備投資額の推移

単位: 億円 (¥100 Million)



・航空機関連 約 1,625 億円
・その他 約 445 億円

減価償却費の推移





有利子負債残高の推移

